

[クラブ方針説明 / 代表取締役社長 玉井 行人]

皆様方にはいつも応援していただきまして感謝しています。2018 シーズンはチーム成績が低迷し本意な結果となりました。悔しい思いをさせてしまい、誠に申し訳ございませんでした。

こうした現状を踏まえ、昨年末、2019 シーズンを起点にしたギラヴァンツ北九州の改革指針を決めました。このため、いつもはサポーターカンファレンスという形で開催させていただいておりましたが、今季はあえてクラブ方針説明会として私たちの思いを聞いていただきたいと思います。

改革の基本的な考え方は、単年度ではなく、中長期的な観点から、クラブ再生を目指すということです。

まず2018 シーズンを振り返ります。昨年の年頭に掲げた目標は3点。(1) 新監督・新チームでJ2昇格(2) 地域密着の「深化」と「進化」(3) ホームゲームの平均入場者数7000人。しかし、チーム成績は6勝9分け17敗で、J3最下位。二つ目の地域密着は、前年よりホームゲームの開催日のスタジアム内でのイベント、地域でのイベントの数に関しては増加しましたが、さらなる認知度の向上が必要です。ホームゲームの平均入場者数も4500人と遠く及びませんでした。私たちの努力不足で非常に申し訳ないと責任を痛感しております。

チームの成績不振に関しては様々な要因があるのですが、短期間で監督が交代して戦術の一貫性がなかったことが大きいのではないかと考えます。例えば、2016年の柱谷幸一監督、2017年は原田監督、2018年は森下監督と柱谷哲二監督でした。これからは中長期的にもう一度チームの基盤構築、土台づくりに取り組む必要があるという認識を持ちました。

集客施策につきましては昨年の年頭に、サッカーに関心のない人たち、いわゆる「非サッカー層」の開拓をしなければいけない。そうしなければサッカー人口のすそ野は広がらないと考え、ファミリー層、若年層といった新規顧客を対象にしましたが、なかなか伸びませんでした。他のイベントとのコラボ企画、例えばアニメ「ソードアート・オンライン」とのコラボもしましたが、大きな集客増にはつながりませんでした。

ただ、新たな分野に取り組んだことで経験値は蓄積されたと考えています。「非サッカー層」をターゲットにするのであれば、プロモーション戦略・マーケティング戦略を見直しで発展させていくことが必要であると思っています。今季もこういうことをやろうと思っていますがJ3では財政的な問題もあり、昨シーズン並みにできるかどうか今のところは何とも言えませんけれども、昨シーズンで蓄積された知見を基に、より効率的・効果的な政策を戦略的に組み立てていく必要があると判断し、現在、社内で検討しております。

2019年を起点とする改革の指針を三つ挙げます。(1) 強いチームづくり(2) 地域に愛されるクラブへの成長(3) フロントの組織改革一です。

具体的に「強いチームづくり」は、ギラヴァンツ北九州としてのフィロソフィー(哲学)を確立し、土台づくりから再構築することです。

フィロソフィーについて、これからギラヴァンツ北九州が目指すサッカーは北九州の精神風土、「地域のDNA」に立脚したものとさせていただきます。

北九州は遡れば、石炭、製鉄を中心に発展してきた街です。ここで暮らしている人はひたむきに仕事に取り組み、創意工夫を凝らして企業を進化させ、いくつもの危機を乗り越えてきました。エネルギー革命で炭鉱が閉山した時も、鉄冷えの時代も、北九州の人達は決して諦めずに危機を克服してきました。そういう意思の強さがあると考えます。こういう「地域のDNA」に立脚したフィロソフィーをチームのメンタリティとして浸透させたいと考えます。キャッチフレーズは「チームの勝利、北九州のプライドのため試合終了まで勇猛果敢に自己犠牲を惜しまず走り続ける」です。魂が震えるようなエキサイティングサッカー、ピッチで展開される試合は北九州の人たちの心を二重映しにするような形にしたいと考えます。

地域に愛されるクラブへ成長は、ギラヴァンツ北九州という名前をもっと北九州地域に浸透させる、認知度を向上させることです。フロントの組織改革に関しましては、業務のスリム化、組織全体のボリュームのスリム化も含めまして考えていきます。これに伴い IT の積極活用、財政基盤の強化も図っていきたいと思っています。

2019年のスローガンである「CHANGE FOR KITAKYUSHU この北九州のために」はギラヴァンツ北九州の再生に向けた改革の決意表明です。小林伸二さんという指導者を中心にもう一度、土台から再構築して強いチームにしていきます。

[強化方針説明 / 強化育成普及本部 監督兼スポーツダイレクター 小林 伸二]

皆さんこんばんは。今日は寒いなか本当にありがとうございます。リーグが始まる前からしゃべるのは本当は怖いんですけど、材料が今日はありまして。今日5泊6日のキャンプが終わって帰ってきました。私の話を聞いてもらった後、旬のキャンプの映像を少し編集しているのでそれを見てちょっと違うんじゃないかなと思ってもらえればありがたいです。

まずは基本的にクラブがこういう状態だということですが、私は社長と共感しまして自分のこの経験をクラブに落とすことができないかというような夢を持ってきました。私だけではなくて今回来てくれたスタッフも色々な経験を持っているスタッフが夢を抱きながら来てくれているので、短いキャンプでしたけどすごく楽しい時間となりました。

それではクラブの話をしたと思います。まずチームの目標です。先ほどから強いチーム作りというのはやっぱり時間がかかります。土台作りということですから現場を見るという事が一つ、Aクラスに入りたい、17位のチームでAクラスに入りたい。去年は(J3リーグは)20勝で1位なんです。J1J2で20勝で昇格はないと思います。我々は6勝でこれが10勝になると10位なんです。20勝で1位なんです。そうなる6位くらいだったらその際に

いるということと競っているということですね。6 位くらいにつけつつ、上位へのチャンス
をうかがう。まずアベレージを持って選手に自信を与えつつ闘って行きたいと今シーズ
ンは考えています。

では実際何をやるんだというところで、攻守の切り替えが早いコレクティブ、3 ラインが
コンパクトというところですよ。3 ラインがコンパクトに動くということ。コンパクトに動く
と一人だけ動かないと穴があくということです。そういうことを考えながら素早く動くとい
うのと、ポジションを修正するということです。早くポジションを修正する人もいれば早
く動かなくちゃいけないという人もいます。もう一つはよく聞かれるのは短期で結果を出そ
うとすればリーグ戦では守備の構築が必要です。けれども守備をするということは必ず攻
撃があるために守備をするわけで、となると攻撃をしていると必ず守備の準備が必要にな
るということは戦術的に絶対いるんです。攻撃をすると相手はしっかり守ってカウンター
です。そのカウンターの準備をするということできくと、常にトレーニングは相反するとい
う準備がいるということですね。こういうことを常日頃選手には言っています。今回違っ
ているのはフィジカルの現状、土台作りをするということは選手は今どういう状態にあるの
かということをチェックさせてもらいました。トレッドミルで 20 分走り続ける、スピードが
変わります、最高 20 分走ればいいという感じです。その後すぐに筋肉の使い方、早く筋力
が高いところまで上がる人もいればゆっくり上がる人もいます。サイベックスでチェックしま
す。グラウンドレベルでヨーヨーテストという世界でやられている高強度で 20M×20M、ス
タートしてください、走ってターンしてゴールして少し休んでまた走るというのを繰り返
すんですね。そういうテストをやりながら現状を知っていく、選手がどういう状態にあるか
というところでトレーニングを開始しました。今回は本当に予算が少ない中で GPS という
色々なものを測ることができるものをクラブから購入してもらいまして、それを使いなが
ら心拍・スピード・強度・総合距離というものが出ていますけど、更に切り返しの動作もチ
ェックできています。そういうことでフィジカルの現状を調べました。図の左から体脂肪、
フィジカルコーチが測定しました。真ん中が筋力です、三つ目がジャンプです。向かって右
側がトレッドミルです。20 分間だんだんスピードが上がる中で走る、走りきれないとアウト
です。15 分から 20 分の間でだいたい限界がやってきます。隣にサポートを置いて支える
という感じです。ローリングに足がついていかなないところまで走らせるというところですよ。今
回はそういうことをやらせていただきました。それは 4 日かけてやりました。今回は主に攻
撃、大まかに攻守の切り替えが早いと言いますけれど、攻撃はまずゴールに向かうスピード
ある選手がいます。意外とスピードがある選手はドリブルをやります。ドリブルはリスクが
あるんですね。うまく抜ける時と抜けない時、抜けない時がやってくるとその選手は多分パ
フォーマンスが悪い時です。期待されるからこそやるんですけどパフォーマンスが悪い。
それをどういう風に使い分けるかということも大切です。時には裏に走るということです。
オフザボール、ボールがない時に準備するということが実は少し欠けているんですね。そ
ういうのを一手二手先を考えながらサッカーをやるというところですよ。ゴールを取ることを

逆算してボールを回していく、ボールを回すことが目的ではなくて、回した先に得点があるというそういう意識を持たせるというところですね。あと当然速い攻撃をすれば縦を抑えにきますから幅広い攻撃、68メートルをうまく使う。よく失敗するのが、脚元から脚元、いつ攻撃にスイッチが入るか、それで取られてカウンターです。足元と裏、裏に飛び出すということを入れています。それと縦パスを入れると締まる、だったら脇に入れる。さっき言ったようにダイレクトプレー、前に行く直線で行くそして広げるといった感じを取りたいと思います。たぶん今までと違うのは奪われたら素早く切り替えてプレスをかけるという事です。休まずに奪いに行く、だいたい5~6秒ですね、入って取れなかったら次の準備に入るというところが躍動感あるサッカーになってくるんじゃないかなと思っています。守備は先ほど言ったようにコンパクトですから、準備していなかったら裏を取られますし準備していたら蹴るだけなのでまた自分たちの攻撃になりますよね。それを逃した時にはコンパクトになるので、みんなでコレクティブなサッカーをすると限定です。次はフォワードの選手がどちらかに限定します。それで連動してボールを奪うというところをやります。意外と言葉は出るんですけどこういうのを組織の中で90分間やって行くと、チームがまとまると取れますよね。それが分かってないチームは取られるということになると思います。それが全部取れなくても何回か取れると自信になるんですね。何回か取られる相手はパニックになります。そういうところが今日調子がいい調子が悪い、たった1回か2回かのプレイでそういうことが決まるというのが意外とサッカーにはあるので、そういうことはやっていきたいと思います。あとゾーン1、三つの考え方があります。ゾーン1はアタッキングエリアと考えてもらえば結構です。前の方でさっき言ったように攻撃のところからの素早く切り替えるということですね。次はゾーン2、ちょうど真ん中くらいで限定してボールをどこで奪うかということですね。最後はゴールに近くなるとゴールを守る7.32メートルを守るためには中に集中します。そうすると相手は外に行きます。そうすると必ずクロス守備です。クロス守備は難しいです。ですけどこれは少しずつトレーニングに入れています。

あとはメンタル。地元北九州ということと言うと勇猛果敢、賢く相手を見て戦う、最後まで諦めない。当たり前なんです。トーナメントじゃないんですから。トーナメントは負けたら終わりじゃないですか。リーグ戦は1週間後に次の試合がやってきます。負け方がどういふことになるかで次のゲームに繋がるんです。例えば相手が二人退場しました。1-0で終わるよりもチャンスだから5点も6点も取る、もし仮に6点取ったとします。一点しか取れないチームだったら6試合分の得点になるんです。リーグ戦だったら最後は得失点差が重要になるんです。そうなるといかに取るかというのはすごく大事だし、いかに取られないかというのもすごく大事です。それと、今日のゲームがダメでも一週間後に必ず試合はやってきます。そうであればこのゲームの中でやっぱりリカバリーしていかないと落ち込んでいる場合じゃないんです。負けてもいいから行かなくちゃいけないんですね。それが一週間後にやってくるんです。それがおそらく北九州に根付くサッカーになっていく、ちょうどそういう風にマッチすると思うんですね。リーグ戦の良さ、日本の文化の中に引き分けの文化という

のはあまりないんですね。相撲、柔道のように。でもサッカーの引き分けの文化があり、引き分けで勝ち点1を取るというのは実はすごく大きくて。勝ったら勝ち点3で次も勝とうとしますよね。それは大事なんですけど、敗けたゲームを一気に取り戻そうとすると連敗することはよくあるんですね。だからしたたかに勝ち点1を取りつつよかったら勝ち点3を取っていくというようなメンタリティが必要になってくると思います。後はさっき言ったように年間34試合しかないです。各週一回しかないんです。月に4回でいいんです。だいたいJ1J2は月に6回ある時期がありますから、ということはいいい準備をしながら戦える、どんな時でもいい準備をしながら戦えるというのがやってきます。例えばゴールデンウィークにゲームが詰まっていることがない、お盆の連休にゲームが詰まっていることがない、常に一週間準備できます。ですからいい準備とチーム一丸となってやっていくことがすごく大事だという風に思っています。

フィールドプレーヤーが23人、キーパーが4人の合計27人で例年より少ないです。ということは一人一人の選手が大事だということを今自覚させてもらっています。選手にも大事だと言っています。フィールドプレーヤーが23人しかいないんです。大体1割くらいが怪我をします。ということは20人しかいないということは、公式戦があつて次の日に練習ゲームを組んでいます。そうすると公式戦があつてちょっと出た選手も次の日に使います。2日で90分使います。全部出ている人は出場しません。40分しか出ていない人は次の日に40分出てもらいます。というような形に持って行くんですけど、20人じゃ回せないんですね。ということは23人ということは怪我がないように進めていかなくちゃいけないことと、ここで育成との連携が出てくると思います。育成の選手が出るということですね。そういうことも考えながら進めていきたいということと、今選手は頑張ってくれています。チーム内競争がすごくあつて、選手は日々違うんです。この選手に声をかけるとこの選手が変わるし、日々の変化がすごいんです。柱が決まらないというような感じで競争してくれています。

先ほどちょっと触れました育成ですが、まずスタッフがトップチームに合流するということです。もう2回来ています。6人のスタッフが来ています。なかなかそういうことを嫌う方もいらっしゃる。外国人監督でしたらピッチに入れさせてくれませんし、スタッフの中でもトレーナーも限定しますし、そういう方もいらっしゃる。幸いにも自分が監督とスポーツダイレクターを兼任しているので、それはもうできるだけ交流していきたいという風に思っています。週末に練習ゲームをすると例えば10人レギュラーが出ました、13人います。ですけど90分やると難しい時は人数が足りなかったらどこかから選手を借りなくちゃいけない。もしユースの選手がスケジュールが合えば練習ゲームに来てください。トップチームのミーティングはこういうことで進みますよ、で練習させます。例えば5分10分でもそれって生きたものとして繋がるんですね。清水エスパルスで2年前にやっていた時もそうです。育成をつなげたので結構な選手が伸びてきました。少しカップ戦は負けましたけどほとんど3~4人ユースの選手を入れた事によって伸びていったということもあるので、そ

ういうこともやっていきたいなと思っています。U-18 の選手と僕も長崎県の出身ですから九州はすごく高校が強くてジュニア、ジュニアユースまでクラブ育ちが高校に行くと言う、これもすごくいいことだと思います。しかし我々がしっかりしてくると我々にもその育った選手が来てくれる、要するにユースの選手の選択肢が増えるというふうに思ってもらえばいいし、最終的には育ったクラブで活躍してほしいということです。24 年前にサンフレッチェ広島ユースを立ち上げた時に私がユースの監督でした。4 年間やりました。それが 24 年経つと何百人もの卒業生でやっぱりそこから出てくる選手が広島を支えているんですね。24 年間でですよ。このクラブは 9 年経っていますよね。ですから何年かきちんとやればできる可能性があるんです。そこはやっぱりどうやって行くかというのはすごく大事だという風に思っています。すごく近い将来だと思います。北九州にはすごく良い選手の土壌がありますから、当然県外にも出ます。県内の強豪にも行きます。ただ今年ユースはいい選手が上がってきているという話も聞いていますから、3 年後にはトップチームに入る可能性があります。だから良い連携をしながらそういうことも作ってやりたいなと思っています。それはまず指導者の連携と交流だと思うのでそこは大事にしていきたいです。縦割りができるのがクラブだと思うので、学校教育は横割りですけどクラブは縦割りですからやっぱりいろんな情報が縦で繋がっていく、今回フィジカルコーチを招いたのはユースの方にも色々な形で落としてくれると思っているので、そこも合わせてやっていきたいと思っています。※この後、鹿児島キャンプの映像を用いてトレーニング方法等について説明をさせていただきました。

[質疑応答]

質問者①

今季（2018 シーズン）の営業収益と損益見通しと（2019 シーズン）の予算をお話しできる範囲で教えてください。

回答者（戸田管理本部長）

1 月末が決算で今集計中です。売上は昨年に比べるとかなり落ちますが、ある程度当初から見込んでいて、2018 年予算に折り込んでいたのですが、その予算に対しても未達となりそうです。広告収入については皆さんがこれまでどおり支援をして頂いたおかげで予算並みですが、一番大きく未達だったのが入場料収入です。ご存知の通り入場者数平均 7000 人の目標を立てていましたが、実際には 4501 人ということで、入場料の落ち込みが大きかったです。その結果残念ながら今期の見込みは赤字決算になるであろうと考えています。来期に関して、収入の増は見込んでいません。広告収入については J3 三年目でありながら支援を継続していただけたところも多いのですが、落ちる場所もあり、予算上は減収で組んでいま

す。しかし連続で赤字というわけにはいきませんので、増収や支出の削減で黒字化を図ろうと考えております。

質問者②

3点あります。一点目はサポサポの件です。今季もクラブと協力して活動して良いのか、良いのであれば昨年までの担当の社員の方2名が退職されたようなので今年の担当者を教えて欲しいです。2点目が北九州空港の看板の件なのですが、現在は不明ですが昨シーズンはその前のシーズンの監督と選手とスローガンのままで結構目立つ位置にずっとありました。どのタイミングで変えているんですか？3点目がLINEの件なのですが、昨年のサポカンでLINEはやめると記憶しているのですが、現在もアカウントが残っていて検索すると友達登録ができます。新加入の選手のサポーターの方がもし登録したとしたら全然機能していない状態なのでアカウント自体を削除するなどの対策は立てられていますか？

回答者(平原事業本部長)

一部の方はご存知かと思いますが昨年末でフロントの中心的な役割を担っていたスタッフ2名が退職しました。今年サポーターに関しての窓口は運営のメンバーで対応していきたいと思っております。

回答者(野口広報・プロモーション課長)

空港の看板はおっしゃる通りで2年前のものになっています。今準備は進めているのですが今週シーズンポスターが出来上がるので、そのデザインに合わせて対応する計画をしていますのでもう少しお待ちください。3番目の質問のLINEについてですが、実は前の担当者がアカウントのログインを喪失してしましまして今LINE社の方に削除の依頼をかけております。LINEはやらないという方針は変わっておりませんので削除する方向で動いております。

質問者③

質疑と言うかご提案なんですけど、全27選手を北九州市フレンドリータウンに就任して頂いたらいかがかというご提案なんですけど、例を挙げれば競技は違うんですけどプロ野球の北海道日本ハムでは、北海道は197市町村があるらしいんですけどそちらに応援大使として選手が持ち回りで各市町村の応援大使に就任しているという取り組みをやっています。各市町村で年間を通じて選手との様々な交流イベントや表敬訪問などを行なっているそうです。これをギラヴァンツに当てはめるとすれば北九州は7区あります、それプラスフレンドリータウンも18市町、合計25の自治体を一人ずつ就任してもらってイベントなどに参加してはいかがでしょうか。例えば池元選手であれば出身の小倉北区、中山開帆選手であれば行橋市というような形で、選手のSNSなどでその土地の魅力をアピールしていても面白い

かなと思います。

回答者(平原事業本部長)

面白い取り組みだと思います。選手をどうやって街に出していくかというのは小林監督とももっと密にお話を進めさせていただいて、当然練習や試合に向けてというのが中心になりますので、その話し合いを進めながらそういったことも進めていきたいと思います。参考にさせていただきます。

質問者④

ご提案ですが、コラボイベントですが前はソードアート・オンラインとのコラボをやったんですが、自分は職業柄手伝ってほしいということでポスターの掲示などをさせていただいたんですが、ポスターが来ること自体が本当にギリギリだったんですね。一週間や2週間程度のポスター掲示では人の目につかないので、出来る限りポスターなどを早めに出してほしいというのはあります。もしやるとしたらですけど。やっぱり告知するにはそれなりの時間が必要だと思いますので、インターネットだけでは届かないところもあると思いますので出来る限り早めの対応ができればと思います。もう一点ですが、今回YouTubeに練習風景をアップしていただいているとすごく嬉しく思っているんですが、ギラヴァンツのチャンネルに合わせないと見られないですよ。今回キャンプの動画についてはホームページのトップから見られるようにしていただいているので、もし練習をアップするんだったらホームページから見れるようにしてもらえると嬉しいかなと思います。

回答者(平原事業本部長)

ソードアート・オンラインとのコラボの件ですが、準備自体がそんなに期間がある中で進めたものではなかったというのがひとつの反省ですが、ご存知のように権利者との関係もあってポスターがギリギリになってしまったことは本当にお詫び申し上げたいと思います。同様の企画が今後あれば予算的にもかなり大きく必要になってきますので、最大の効果を得られるように準備を進めていきたいと思います。

回答者(野口広報・プロモーション課長)

YouTubeの件ですがまず今年は動画をどんどん配信しようという方針でやっておりますので、ご意見をいただきありがとうございます。トップページから見られるようにしてほしいということなんですが、実は今のギラヴァンツのホームページのサーバーというのがJリーグ全体の共有の基盤の中で動いているサーバーでして、簡単にリニューアルすることができないんですが、来期に向けてはその辺も含めてリニューアルを考えていますので今年はちょっと難しいかもしれませんが来年に向けては今のご意見を参考にしてリニューアルを考えたいと思います。

質問者⑤

一点目ですが、フライデーナイト J リーグの開催についてなんですがギラヴァンツこその街中スタジアムのミクスタで開催するべきだと思っているんですが今季も開催はありません。普段と違う客層とか仕事終わりのサラリーマンがちょっと飲みに行こうかなという風になるかもしれません。できない理由、やらない理由は何かあるんですか。2 点目ですが、今期は赤字ということを知ったので、Twitter でアンケートをとって見たんですけど、ふるさと納税で寄付金の使い道にギラヴァンツの支援金として使えないかなと思っていて、実際ザスパクサツは前橋市から 900 万円の交付がされたと聞いています。そのようなふるさと納税の活用はできないのかなと検討いただければと思っています。

回答者(運営担当スタッフ福田)

フライデーナイト J リーグの件です。これは J リーグと DAZN が一緒に盛り上げようという施策なんですけど、残念ながら J3 はこの指定がございません。クラブで独自に金曜日に開催をということについても J3 については土日のどちらかに開催日の希望の日を取れるということではありますが、金曜日が入っておりません。34 節の中には土日のどちらも選べない、この日で開催をしてくださいという日もあります。その中で決まった日程が皆様のお手元に出しております日程表でございます。金曜日に街中が盛り上がるためにも J2J1 に上がって開催できればと思っています。

回答者(平原事業本部長)

ふるさと納税の件は把握している者がいないのでまた調査をしたいと思っています。

質問者⑥

社長から組織のスリム化という目標がありました。組織のスリム化が行われれば、コストダウンもしますし意思決定も早くなりいいことづくめだと思うのですが、なぜそういうことを目標に掲げられたのか、なぜ今まで肥大化してしまったのか、スリム化を思いついた理由をお教えてください。

回答者(玉井社長)

ギラヴァンツ北九州は元々 J2 におりましたので、その水準でホームゲームに対応できる組織編成をしております。クオリティを落とさずにマックスで業務が遂行できる体制を維持してきました。だが、これからは IT の積極活用などの施策を実行し、もっとスピーディーに意思決定ができ、もっと迅速に動けるのではないかと考え、スリム化の必要があると判断しました。

業務もスリム化して、ひとりの社員が様々な業務に対応できるマルチタスクを担える体

制を整えていきたいとの考えを持つに至りました。すぐにはできませんが一定期間の間に少しずつ状況を見ながら計画を進めていこうと思っています。

質問者⑥

痛みは伴うと思うのですがその辺りはいかがですか。

回答者(玉井社長)

改革には痛みが伴うのが常です。

質問者⑦

SNS で各クラブが公式サポーター、公式応援団、またはアンバサダーという形で著名人を使っているクラブもいろいろありまして、ここ最近だとマスコット総選挙に関して FC 岐阜のマスコットのギッフィーがすごく票が伸びているらしいという話を聞いて何でかなと思ったら、今年からアンバサダーについてアイドルの子がすごく拡散していて、北九州も政令指定都市で 100 万人近く人口がいて出身の著名人も結構いると思うのでそういった人たちに公式のサポーターなり公式のアンバサダーという仕事をやらしてもらえないのかなと思います。クラブ側としてはそういった考えはあるのでしょうか。

回答者(平原事業本部長)

マスコット総選挙でギランへ投票いただいた方、本当にありがとうございました。昨年より少し順位が上がって 33 位になったようです。今おっしゃったような内容も新しい取り組みとして進められたらいいなと思っておりますので、どのようなやり方なのかはわかりませんが取り組みの方は進めていきたいなと思います。

質問者⑧

小林監督にお伺いします。今はキャンプ中で新しいチームと新しい監督ということで選手が成長して行ってやる気に満ちていると思うのですが、シーズンの途中で試合に出られない選手や練習もどうしてもルーティン化しがちになると思うのですが、そういう時の選手のメンタルに対するケアに関してはどのようにお考えでしょうか。今までは GM と監督ということで体制的にはクラブ側という形で分かれていたと思うのですが、今回は兼任をされるということで選手がメンタル的に落ち込んでいる時に専門家を入れるのかとかそういったことは考えていらっしゃいますか。

回答者(小林監督)

今は横一線ですので頑張ってくれています。それからメンバーが決まりだすと少しそういう風になってくるかと思います。34 ゲームあります、一週間一回という形になるといろんな

現象が起こります。常々私が言っていることは、メンバーに入りました、そしてゲームに出るといって伸びます。ですが伸びるといっているから常に伸びる訳じゃなくて、意外と出ると守りに入るんですね。思い切れなくて自分の今の技量が分かってくるんですね。それは今の技量は相手によって変わるということです。通用することと通用しないことが起きます。そこはおそらくメンバーを外れた時にやるべきことなんです。そこを選手がわかると出る時、出ない時、意外と出ないときにぶれずにやっていた選手がレギュラーを勝ち取ります。選手生命は長くなります。という風にケアをします。出ている時には素直に頑張ってくれますけど、出ないと危険分子になる時もあるのでそこは内に内ということが鉄則になるかと思います。強いチームに勝ちました、勝ち続けると少し危険です。負けると意外とぶれるんです、人のせいにしますから。そこを自分で何かできないかという風に位置づけてチームにつなげていくというのは、ピンチがチャンスになるかというのは我々スタッフと選手にかかっています。情報は内に入らないと伸びないんです。一番見ているのはスタッフなんです。相談するのがスタッフではなくて色々な方に相談しても良い言葉しか返ってこないんです。厳しい言葉はかけられないんです。それは見てないからです。そこに選手の甘えが絶対に出ますから、そこはうまくコントロールしていきたいというのは一つあります。

もう一つはゲームに出ることによって、これだけ強度の高いゲームを求められるようになったのはやっぱりたくさんの方に応援してもらえるとということと、メディアの数が違うということです。それは J3 も同様です。色々な人が関心を持つということで、色々なことで情報が残るとということはプラスがあると同時にプレッシャーになるかと思います。そこでメンタル的に参る選手は必ずいます。そこは我々が足りないレベルになることはたくさんあります。ですから専門家の人にもお願いすることもありますし、それはそういうところのケアも必要になることもあります。ただ今年スタッフが 1 名多いのは残った選手が大事なんです。選手が残った時にきちんと練習をさせるということと、公式戦があったらホームが 2 ゲームありますから必ず練習ゲームも 2 試合やります。必ず 2 試合します。良くなってきた選手を出すようにします。出ているからじゃなくて、手を抜く選手は外しますから。やっぱり現場でやっているだけなんです結果は。だからやっている人が答えを出してくれると思っているので、今日挙げたように切磋琢磨という風になるには私たちがアウェイに行った時に残った選手をどうケアするかという問題もありますし、次の日にトレーニングマッチをする、少なくともホームは 2 ゲームありますからホームの時には必ずする。そこで表現の場ができますからそこでパフォーマンスがいい人をいかに引き上げていくかというのが大事になると思います。人数が少ないので皆が準備をしてくれないと多分乗り切れないと思います。出ている選手は放っておいても頑張りますから、皆さんにお見せしたようなミーティングを週に 1 回やるのと同時に練習ゲームのミーティングをやっていくとなるとおそらく競争意識が出てくるということ、少し強度が高いトレーニングをやっていますからいかにリカバリーが早いのかというのは若い選手ですから、ベテランの選手をいかに使い休ませるか

というところに若い選手が入ってくるんじゃないかなと思っています。そういうことでフォローしていきたいと思っています。そういう時にプロだからこそきちっとケアをしてあげたい。我々のチームに来ていい選手になって出て行く選手もいるように、やっぱりそういう選手を作りたいと思っているので、出来るだけそういうところはうまく全員が戦っているようなチームにしていきたいと思っています。そういうスタッフが今回は集まっていると思っています。

質問者⑨

新聞で見たのですが、ミクスタが生み出す赤字とギラヴァンツの低迷や観客減を結びつけたような記事がありました。実際は関係ない話だと思うんですが、その辺りは訂正するような形でアナウンスしても良かったんじゃないかなと思います。もう 1 点、今年のキャンプは土日が入らなかったののでできれば来年は土日を入れていただくと鹿児島まで行けますのでよろしくお願いします。

回答者(玉井社長)

ご指摘のようなミクスタの問題がメディアに取り上げられたのは、1月の北九州市長選の告示前に掲載された政策課題を検証する記事でした。争点の一つということでしたが、政治的な文脈の中で発言するのはいかがなものかと考え、控えていました。

いずれにしても集客については、今私たちが目指しているチームやクラブの再生とも関わってくるので、今後は伸ばしていきたいと考えています。

今年のキャンプは平日実施になりましたが、来年は土日を含む日程が組めるよう配慮したいと考えます。

[お礼の言葉 / 代表取締役社長 玉井行人]

本日は長時間お付き合いいただきまして、ありがとうございました。2019シーズンを起点にギラヴァンツは大きく変わりたいと思っています。小林監督のもとチームの土台からもう一度作り直し、フロントスタッフも結束し両輪となって、次のステージを目指します。今後ともご声援をお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。